

内容を的確におさえながら読もう（５年）

「まんがの方法」「おもしろさのひみつをさがろう」

●指導目標

- 課題を解決するために図書室などを利用して、意欲的に資料を集めたり活用しようとしたりする。 関心・意欲・態度
- 調べたことや考えをわかりやすくポスターにまとめ、適切な言葉づかいでポスターセッションを行う。 話す・聞く
- 書く必要のある事柄を整理したり、ポスターの効果的な記述を考えたりしながら書く。書く自分の課題を解決するために、必要な図書資料を選び、内容を的確におさえながら読む。読む
- 表現方法としての記号のはたらきと効果について理解している。 言語
- 必要な語句について、辞書などを利用して調べる。 言語

●単元について

この単元は、説明文の読みを出発点にし、「おもしろさ」を考える方法を追求し、読書活動へ発展する読書単元である。

第一教材の『まんがの方法』は、ストーリー漫画を例に、多角的な観点からその「おもしろさ」を生み出す方法を説明した文章である。単なる仕組みの提示にとどまらず、読者なりの思考を要求するしかけをもつ。ひと昔前の、漫画イコール学習の阻害要因という考え方も薄れてきた。漫画が単に消極的な娯楽であった時代は終わり、文化の一つとして認知されるようになってきた。『まんがの方法』では、文字以外のメディアを読み解く力と態度をはぐくむことができるであろう。

第二教材の「おもしろさのひみつをさがろう」は、資料収集からその読み書き、整理、集約、発表という一連の総合的な展開をもっている。テーマの設定、資料などの収集のための複数のメディアの使用、資料の整理、発表資料の作成、発表など、いくつもの学習活動で学習力が養われる。その際、第一教材で示された説明の方法、例示の方法などが生かされることになる。

●児童の実態

４年生の国語の学習「便利について考えよう」では、町の便利ややさしさについてグループごとに調べ、初めてポスターセッションという発表の形を行った。調べたことをまとめたり、資料（写真・グラフ・表など）を使って発表したりする活動は、時間がかかりとまどいもあったが、意欲的に取り組むことができた。５年生になり、「声に出して伝え合おう」では、自分のことについてスピーチを行い、的確に伝えたり聞いたりする経験をした。声が小さく聞き取りにくい児童が数名いるため、朝の会で継続してスピーチを行っている。その際、新聞記事などの興味や関心のあることを集めた「情報ノート」を活用している。

クラスの中で、漫画をよく読む児童は３分の２以上いるが、漫画を持っていない児童や、ほとんど読まない児童も数名いる。家で漫画を読まない児童も、学級文庫に置いてある「ドラえもん」の学習漫画シリーズは興味をもって読んでいる。「教科書に載っている漫画も持ってきていいよ。」と話すと、次の日からさっそく数人の児童が持ってきて、休み時間に読み始めた。読書が苦手な児童も漫画だと気軽に読め、さっそく教科書に載っている「まんがの方法」を確かめていた。また、この時期の児童は「ひみつ」という言葉に知的好奇心がくすぐられる時期でもある。

そこで、ここでは児童の興味のあるテーマを自ら設定し、課題を解決するために調べ学習を行い、情報活用能力を育む単元を考えた。多くの資料を集め、「おもしろさのひみつ」を探ることで、伝えたい思いが高まっていくと思われる。そして、調べたことをまとめ、ポスターセッションを行うことで伝え合う力を育てたいと考えた。

●単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
資料を利用して、必要な事柄を集めたり活用したりしようとする。	調べたことや考えたことについて、わかりやすく発表している。	書く必要のある事柄を整理したり、ポスターの効果的な記述を考えたりしながら書く。	筆者の意見や感想をとらえ、自分の考えを明確にしながら読む。 自分の課題を解決するために、必要な図書資料を読む。	表現方法としての記号のはたらきと効果について理解している。 必要な語句について、辞書などを利用して調べる。

●学習指導計画（全12時間）

展開	時・過程	学 習 活 動	留意点・評価規準
第一次	第1時	単元の目標と学習活動を知り、学習計画を立てる。 新出漢字・難語句を確認する。	○心に残っている漫画について話し合ったり、実際に漫画を提示したりするなどして動機づけする。評価規準
	第2時	『まんがの方法』以外に「おもしろさ」を探求できるテーマについて話し合いの見通しをもつ。	○「おもしろさ」とは単に楽しめる事柄だけではなく熱中できること全般とし、テーマを考えさせる。評価規準
	第3時	全文を通読し、筆者が提示した課題、「まんがの方法」の定義が述べられている段落を確認し、まとめる。	○問題意識をもちながら読み進めるようにノートにまとめさせる。評価規準
	第4時	「まんがの方法」に着目しながら、段落のまとまりを確かめ、全体の段落構成をおおまかにつかむ。	○段落のまとまりから、筆者の論理の展開を見通させる。 評価規準
	第5時	それぞれの「まんがの方法」について叙述内容を読み取り、その役割や効果についてまとめる。 かっこの表現効果を考える。	○語と語の照応をさせたり、中心になる文を見つけさせたりする。 ○「まんがの方法」と提示された事例と比較検討させる。 評価規準
	第6時	全体の段落構成から、筆者の論理の展開をとらえる。	○段落相互の関係から論理の展開について話し合わせる。 評価規準
	第7時	各自で用意した漫画にも「まんがの方法」があてはまるかどうか確かめる。	○教師もサンプルとなる漫画の作品を用意し、大きく掲示しておく。評価規準
第二次	第8時	『まんがの方法』をもとにテーマを考え、発表計画を立てる。	○テーマを設定できない児童には教師が設定したものから選択させ、調べ学習へと導く。 ○テーマは広がりすぎないようにある程度枠を決める。 評価規準

	第 9 ・ 10 時	計画に従って、図書やインターネットを使い資料収集をする。必要な資料を選別し、整理する。	○ 学習の整理のため、メモの取り方や付箋の使い方などを指導する。 ○ 目次や索引、前書き、後書きに注意するなど、時間をかけない資料の探求方法を指示する。 評価規準
	第 11 時	発表内容を考え、効果的な資料を作成する。	○ 発表資料は、内容を精選し、短い文字資料にすること、視覚的資料とすることなどを指示する。 評価規準
	第 12 時 (本 時)	資料をもとに、グループで発表練習をする。	○ 発表内容・発表の仕方などについて話し合う視点をはっきりさせる。 ○ なるべく同じテーマの児童でグループを作り、アドバイスしやすいようにする。評価規準
	第 13 時	発表会を行い、さまざまなテーマに関する「おもしろさ」について知るとともに、探求の方法や内容について相互交流を図る。	○ グループを前半・後半と分け、発表しないときは、違うグループの発表を聞きに行く。 ○ 評価シートに書き込むだけでなく、感想や質問などを交流できるように時間を設定する。 評価規準

● 本時の展開（本時 12 / 13）

目 標

調べたことや考えたことをわかりやすく発表することができる。（話す・聞く）

学習活動と内容		○ 教師の支援	評価規準
1	学習のめあてを確認する。		
調べたことや考えたことをわかりやすく発表できるように工夫しよう。			
2	発表の練習をし、グループでアドバイスし合う。 ・ 資料は適切か。 短い文でまとめている。 文字の大きさが適切で読みやすいか。 絵やグラフなどを使っている。 ・ 発表の仕方はわかりやすいか。 テーマについて要点をおさえ話している。 はっきりとした声で、わかりやすく話している。	○ 発表が聞きやすいように、場の設定を行う。（教室と学習室に分かれて練習する。） ○ 効果的な発表資料になるように、工夫点を確認する。 ○ 相互評価カードを配布し、聞く観点をはっきり示す。 調べたことや考えたことについてわかりやすく発表する。	

3 発表を振り返る。 ・ 友達のアドバイスをもとに、よかった点や改善点に気づいたり、友達のよいところを参考にしたりする。	○ 話し方など改善できるところは、発表会に生かす。
---	---

● 考察

- 「おもしろさのひみつをさがろう」と投げかけたが、「おもしろさ」をどうとらえるか悩んだ。説明文『まんがの方法』では、「方法」が七つ取り上げられている。「方法」に限定したほうが子供たちにとって見つけやすいが、「野球のおもしろさのひみつ」をテーマに決めた子にとっては、「方法」ではまとめにくい。どういう投げかけがよかった。
- 今回は「鬼ごっこ」「ドッジボール」などの遊びやテレビコマーシャルなどの映像ではなく、文字や絵などの紙面に表し、みんなで確かめ合いやすいものに限定した。それでも絵本・昔話・詩・漫画・物語・カレンダー・広告・新聞・事典と広がった。昔話は、親しみやすいために選ぶ児童が多かったが、実際には「ひみつ」や「方法」を探すのに苦労していた。テーマを決めるときに、何を調べ、どうまとめるかの見通しをもつように支援したが、時間が足りなく十分できなかった。
- 資料集めについては、図書室・パソコンルームを利用した。インターネットが同時に四人程度しか使えなく、調べたいことが検索できた児童はわずかだったが、検索の仕方はわかったようだ。放課後図書館に行ったり、クラスの友達にアンケートをとったり、駅でアンケートをとったりした児童も見られた。選んだテーマによっては、資料をどう整理し、必要なものを選択するかが難しかったようだ。
- 発表会のあと、児童に感想を聞いてみた。「方法やひみつを知るとよいことは、自分も使うことができること。」「絵本にも人権問題があるなんてびっくりした。復刻版のちびくろさんぼを読んでもおもしろかった。」「これからも、ひみつを考えながら漫画や物語を読みたい。」「書く人は工夫しているのがわかった。」「調べるのは大変だった。」「

「おもしろさのひみつをさがろう」 氏名は仮名です。		鈴木 まんがのかきかた	佐藤 外国と日本のまん が	高橋 外国のまんがのひ みつ	田中 絵本の方法	山本 エリックカールの ひみつ
岡田 昔話のひみつ	山田 昔話のひみつ	佐久間 ドラえもんひみつ	山口 さくらももこさん のひみつ	小川 まるちゃんひみつ	石井 新聞のテレビ欄の ひみつ	加藤 新聞の構造ひみつ
安藤 昔話	小野 昔話のおもしろさ のひみつ	西村 ドラえもんひみつ	小林 アイシールド21 のおもしろさひ みつ		小島 四コマまんがひ みつ	太田 カレンダーひみつ
田口 昔話のおもしろさ のひみつ	大川 昔話ひみつ	大川 広告ひみつ	水野 広告ひみつ	木下 広告ひみつ	井上 金子みすゞ	中島 カレンダーひみつ
上田 昔話登場人物	松本 昔話のおもしろさ のひみつ	木村 昔話ひみつ	中村 松岡亨子さん物 語を知ろう	渡辺 野球好きな人 きらいな人	清水 子供百科事典ひ みつにせまる	伊藤 工藤直子さんの詩

おもしろさのひみつをさがろう 名前（ ）

友だちの発表を聞いて書きましょう。 よくできているところに、できているところに。をつけましょう。

友だちの名前	要点をおさえ 発表している	声の大きさ・速さ が適切である。	聞き手を見ながら 話している。	資料が わかりやすい	気がついたこと（アドバイスやよいところ）

聞いているときの自分のふりかえりをしましょう。

話す人をよく見て、し っかりと聞くことが できた	発表に対して質問 をした	アドバイスができ た	

調べたいこと
調べる方法
調べたりインタビューしたりすること（どんなこと）
わかったことのまとめ方
どんなふう知らせるか（場所・時間）

(主な計画と反省)

6時間

日にち	主な計画	反省
1		
2		
3		
4		
5		
6		



()

年 組
名前 ()